



ワークショップから版

《作成・発行》

小田原市
文化部文化政策課
& 空間創造研究所

平成 23 年 12 月 1 日

11月6日(日)、いよいよ最後となりました、第6回市民ホール基本計画市民検討委員会が小田原市役所7階大会議室にて行われました。第6回は市民委員27名、(女性8名、男性19名)、市の事務局スタッフ9名、その他の事務局スタッフ4名、市民ホール基本計画策定専門委員会から桑谷委員、合計40名が参加しました。

7月から5ヶ月にわたり市民検討委員会を行い、市民ホールの在り方や望まれること、またこれからクリアしていくべき課題が少し具体的に見えてきたのではないのでしょうか？

第6回 「市民ホール 運営や組織を考える」

最後の市民検討委員会では、可見市文化創造センターなどで行われている市民参画の事例を参考にしながら、市民ホールの運営にはどのような組織や人員が望ましいのか、またホールの外観や景観、防災機能について中心に検討を行いました。

特に、「施設運営に係る権限と責任の重さについて」、市民の皆さんがどういった形で関わって行くのかについて議論が交わされました。

1 班



★★★Point★★★

施設の管理運営について、「市民がどこまで責任をもって管理運営に関わるか」について議論されました。また、「今できること」から始めるために、市民会館やけやきなどの活用、そのための運営組織の立ち上げについての問題提起がされました。

★★★委員コメント★★★

・運営組織にどう参加するか、プロの職業として運営に参加するのと市民がアマチュアで参加するという二つの運営団体を考えた場合、責任の持ち方、役割、権限が違ってきます。有事の際の経営責任がとれるのか、対応はどうかなど、職業として携わっている人には相応の重さがあります。また、施設管理に関しては消防法を理解していないとなりません。

★★★Point★★★

設計に関して、設計者選定や外観に関して市民の意見が反映できないかとの意見がありました。芸術監督などの専門家については、どういう役割の人が必要なのか、予算を含めきちんとした検討が必要といったことや、芸術監督の場合は市民が人選に参加できないかといった提案がされました。

★★★委員コメント★★★

・設計者選定の理由や経過を市民がわかるように公開するのは、最低限必要なことだと思います。
・審査員と設計者が、いかに市民の皆さんの思いを実現に向けていか。それには皆さんの思いを訴えていくことが必要不可欠です。市民の設計への関わり方は大きな検討課題ですが、ある程度専門家に委ねることも必要ではないでしょうか。

2 班



3 班



★★★Point★★★

市民参加の形として、有償ボランティアと無償ボランティアの階層を分ける必要があるのではないか、そして、いずれの場合も専門家は必要不可欠であるという意見がでました。また、現在ある文化サポーターを補強し、協働していけないかという提案がされました。

★★★委員コメント★★★

・市民サポーターの在り方は、基本的には「楽しんで続ける」雰囲気をつくるということを考え方の中心にした方が、良いのではないかと思います。そうすると楽しみながら色んなことができるのではないのでしょうか。
・市民がNPO組織や裏方として管理運営を行っている事例もありますが、あくまで窮余の策であり本来の在り方ではないと思います。

★★★Point★★★

「文化活動は大人の楽しみなので、杓子定規にならずに楽しんで関わっていこう」という意見がありました。また、防災機能については、あまり意識しすぎるとホール建設の目的そのものが変わってしまうのではないかと、という懸念がされました。

★★★委員コメント★★★

・劇場、ホールには客席や舞台を含め危険な場所が多いという点、また、諸室が分散されているので一体感がなく集団生活が難しいという点から、緊急の避難場所にはなりますが長期的な避難場所にするのは難しいと思います。ただし、文化施設はその後の復興に欠かせない役割を担うので、復興時に文化施設としての役割を發揮していけばいいのではないのでしょうか。

4 班



★★★第6回市民ホール基本計画策定専門委員ミニレクチャーの内容をご紹介します★★★

桑谷委員 ～市民サポーター事例 可見市文化創造センター「alaクルーズ」について～

- ・「alaクルーズ」とは、基本構想の検討段階から市民公募で集まっていた人たちが創立メンバーとなり、その後、NPOの法人格を取得した市民参加型のボランティアグループです。
- ・市民サポーターが集まるための部屋として創造スタッフ室ができました。その部屋は、その施設の中で責任をもって管理運営のサポートをしていくという、固い意志の元で造られていると思っています。
- ・机、パソコン、打合せスペースなどが保証されて市民が協働できるようになります。共用ではありますが、印刷室やデジタルアート工房などを利用して広報活動などを行うことができます。施設によっては劇場を造っても市民サポーターの部屋が無いことがあります。それはホールと市民が協働していく意味では、欠落した考え方だと思います。
- ・alaクルーズはボランティアですが、施設に対して自立するという思いで年間2000円の参加費を徴収し、事務経費などの運営経費にあてています。
- ・alaクルーズは有償ボランティアとなっています。「alaマネー」というものがあり、フロントスタッフなどをするとalaマネーがたまり、公演等を鑑賞することができます。
- ・当初のメンバーは100名程度でしたが、現在は60名余になっています。当初は企画、広報、支援の3グループに分かれ活動していましたが、再編成し一本化することになりました。
- ・alaクルーズが立ち上がってから10年間の歳月で、創立メンバーの高齢化や新規メンバー参加の少なさがありました。10年経つとどうしてもマンネリ化していきます。運営に革新的なアイデアがなかったこと、若い人の参加が少なかったことがネックとなっていると考えられます。
- ・当初の設置目的や理想を掲げながらも、時が経つとどうしても停滞していく。そこをどうするかがこれからの市民ボランティアの課題です。

ワークシートのふせん内容をご紹介します

1 班

【市民参加】青少年を育成する企画が必要／フェスティバルを開催したい。演劇、音楽。／市民参加といえどもギャラは必要。“タダ”で行う文化はNG／新ホールへの登録団体は一般財団法人化する必要性を！（非営利法人への動引 etc）／ala をパクリしてみても、それに岩手県北上市を加えたら／非営利法人の会場費の割引等

【運営組織】自然をテーマにした総合コンセプト／“文化活動の三層構造”／ハイパーな連絡組織（中立的な情報伝達組織）、主体としての目標をもった組織（ジャンル毎、流派毎）、具体的なイベント毎の組織、送り手の組織化と受け手の組織化、つなぎ手の組織化。／施設管理者、直営 or NPO、館長、芸術監督、自主事業、貸館、市民参加／NPOなど市民の団体が管理者となるのであれば、全て自立して運営できるよう人材をそろえる必要がある（何でも行政頼りという意識ではだめ）／市民が団体を設立して運営主体となることにこだわらなくても、JV（共同企業体）や市民サポート組織など市民参加の方法はある。／住民自治の街（自治基本条例との整合を）／体を使って行動できる企画担当の設立を。／市民を運営、指導する等する事。内容は松森委員長に！／芸術監督は必要／芸術プロデューサー（監督？）を〇年契約してスバラシイホールにする（日本一に）ソフト的である（運営システム）／名プロデューサーのいる組織。→個人ではなく、市民の合意で／文化団体個人のネットワークのデータベース「文化市民ハンドブック」をつくる／重なり合う関係による文化のネットワーク。市内⇄郊外

【運営システム】年中無休が基本。時間は 22:00 までインフォメーションを／託児サービス 0～3 歳の子を預かるのなら専門スタッフを入れること！！／市民が使える料金に。／24 時間運営

【防災】非常時にきちんと対応できるよう、きちんと訓練されたスタッフが常時いること（市でも防災の体制や役割分担をしておく必要がある）／津波が来た場合の逃げる所をどうするのか。小田原城なのか、ホールの屋上なのか

【景観】本来の小田原城が八幡山であるならば今の小田原城は？この新ホールは金、昔の小田原城の“くるわ”がみえるように

【その他】環境配慮の設定を基本にする。／現約 20 万人が 15 年度ぐらいは 15 万人ぐらいといわれます。現状維持できる都市にするには一。ホール運営は。／コンペのやり方、審査も／素人が参加できるレベルでのコンペを／保安（カギ・・・）や空調など、分割管理できる建物の設計

2 班

【市民参加】常に市民に情報を開示、参加できる／この検討委員会でイベントをやりつつ運営に活かす／建物の一部をワークショップでアートにして欲しい。

【運営組織】専門家とはアートマネジメント資格所有者／運営していくオーガニゼーションをどう使っていくか、彼らが、どう動いていくかキチンと設定していくべきである／運営組織は専門家と市民運営希望者数人によって構成すべき／早めに運営組織を立ち上げ、建築家と相談しながら、使い勝手のいい、運営ビジョンにあったホールをつくる。／芸術監督は予算があれば、いてもらった方がよいが、それも公募にしてほしい。／芸術監督・芸術アドバイザー・館長・ジェネラル・マネージャーetc その空間を担う、「肩書き」を出す必要があるであろう。

【運営システム】個人でも借り易く使用条件をがちがちに縛らない／小田原のことだけを考えるのではなく、2 市 8 町、全国に向けた運営ビジョンを考える。／一つの組織、文化に偏らない運営組織を／文化所属団体の優遇措置をなくし、各事業単位で考えていく／施設の使用において、既得権を廃し、平等に使えるようにしたい。／学割、利用者を広げる（使用料）／使用のルールについては、新しい「マトモ」な物を設定する。「フェア」さは、重要。

【防災】地震想定を高く設定して欲しい／落ちない天板／前庭はなるべく広く（お客さんの一旦集合出来る場所）／「防災の設備」は現在の常識的なコトで大体決まるであろう（それはどの程度のモノ？）最低限 OK ならいいでしょう。

【景観】結局、建物自体のサイズ（立体物）は、大体、決められるであろう。→高さが大体決まる→地上何メートル、／地下何メートルにするか決める必要あり。予算分け！／大手門の復元するのであれば、それも念頭にいたれたデザイン／「建物」自体のサイズ（大きさ）は「予算」で自ずと決まるであろう。そうするとその容積の中に、何が入れられるのか、大体出であろう→結局どお？／高さはなるべく低くしてほしい。

【設計に対しての市民意見】設計者には、小田原城の歴史をしっかり勉強して、尊重してほしい、謙虚であって欲しい、／「建物」のデザインは無論、重要。「マトモなデザイン」をどう実現させるか？プロセスをどう公開し、フィードバックしていきけるか、そのシステムを設定／設計段階で市民参加を考えてほしい／全てのコト、モノに関して「名称」「ネーミング」は重要。今後詰めていく必要。（この建物全体の名称しかり）／設計コンペ案決定時に外観について市民参加の形がとれるようなシステムをつくる／寄木細工など（トイレ）使って下さい 例：ラスカ

【その他】小ホールは木のホールにしたい。小田原の特色を出す音楽、演劇、両方できるものに。／「小ホール」のスペースをどんなモノにするのか現時点でまだ「未定」であろう。今後キチンと詰めていくしかないであろう／この建物は、ホール 2 種+展示スペースがメインだろうが、その他のスペースもさることながら、基本的コンセプトは市民が集まる広場、情報インプット&アウトプット・センター。様々なコト、モノの交流の場でしょう。そのためには、何が・・・？／市民文化祭のお金の収支をデータできちんと情報開示してほしい→今後の運営に反映するため／予算（建物）はなるべく安く／極力地元の業者を使ってほしい／結局「予算」ってどれくらい？それで、スペース自体ソフト自体の規模が出てくるであろう。（「シバリ」がある、ということ）／夜の照明は小田原ちょうちんをデザインしたもの

3 班

【市民参加】市民参加にはちゃんとしたシステム（組織）を作る必要あり／現行の文化団体と連携、組織化しての市民参加（ネットワーク）／市民の文化への「愛着」がベースになった、小田原ならではの組織／無償ボランティアでは続かないと思う／今の「文化サポーター」「レセプション」を更に深化させていく／無償ボランティアをまとめ、管理する有償ボランティアが必要だと思う／市民参加は市民意識の持ち方、考え方、その程度によって左右される／新しい催し物の打合せ、相談ができるような・スタッフ室・フリースペース／活動には不要な物品を置いておけるロッカースペース／責任を負う分有償であった方がよい。

【運営システム】市民利用の申し込みを最優先する／スタッフは全くのボランティアではない方が・・・／スタッフルーム、いつでも利用できる場所、詰め所がほしい／小田原が県西の中心、小田原に関心と呼び込もう／市民が利用しやすい利用料／市の広報誌にホールの催し物を宣伝する。

【運営組織】円滑な運営は専門知識層のリードが必要となるのでは・・・／「友の会」／鑑賞する組織としての友の会／ホールの広報誌を作る／それぞれの専門分野を活かし、多様な市民団体が市民活動ができる組織／専門家が先導するような催しを企画する運営組織

【防災・景観】小田原ちょうちんをかざる／ホールに入って非常口が一目で分かる案内板が欲しい→非常口までの避難ルートの案内も／立地場所が四方に開けているので、基本的防災対策を押し進めれば余分な考えはあまり気にしないのでは／小田原の歴史を感じる外観が良い／「城」と「緑」と一体になった心地よい空間に！／当たり前の事だが、城跡に溶け込む小田原ホール構想は不可欠／景観：城のみどり、広場空間と一体的にみどりの配置、広場づくりの計画を／ホールの中からお城の景色が楽しめる／景観：賑わいが通りにあふれる工夫／駅を降りて会場までの間にホールのフラッグを設置（催し物の案内）／景観：圧迫感を軽減する工夫をする。（立面の分割など）／景観：ハレの日の施設→適度な華やかさ、貫禄。／ポスターを貼れる場所／津波のことを考えるとある程度の高さは必要／ホール利用者が一時避難できるくらいのスペースが必要

【その他】商店街や周囲の自治会もホールに興味を持って、盛り上がり欲しい／みんなが気軽に入れるような入口／土地の有効利用（敷地）を最大限に生かせないか？制約多すぎる。

4 班

【運営組織】組織の中心は市役所／協調する協力者／運営組織はいまから立ち上げるべきです！（民主体、官+民など）／運営-組織としての機能、企画-催し物の内容、洋和／財団設立には国策から推進できるかどうか？／運営は専門職にゆだねることが望ましい

【運営システム】責任の在り方→役割／ボランティア→フォロワー、協力者／料金設定が大事／協調／本格的な運営はプロ、市民がサポート／大人の遊び、年会費は 10,000 円（上限なし）／サポーター支援する事、手助けとしては違う、もっと重たい意／市民参加の楽しみ、会費負担／ホールでの公演活動運営も？／文化活動は大人の遊び、費用、会費

【市民参加】現在できる事／将来的なもの夢／子供会、ジュニアリーダー等、小・中・高生からも企画、意見の聞ける運営、サポーターになれるとよい／鑑賞する市民、友の会（会費）を納め、チケット先行予約や割引などがあると参加できる／小田原の広義のデザイン力を高め、広報のお手伝いがしたい

【防災・景観】津波の時に逃げられる屋上スペースを作る／地震、津波対策をホール建設にどの程度反映すべきか？意識しすぎはホールの本来の建設（構想）を阻害するかも。／太陽光パネル、発電パネル設置、防災

【その他】市民として（参加して）楽しむこと／市民検討委員個人として何ができるかが重要／場と仲間があればミッションは達成できる／託児室あるいは託児に利用する予定の部屋にトイレと洗面所があるとよい。

★★★ひとことアンケートの一部をご紹介します★★★

今から“新ホールオープニング”のイベントを企画することが必要なのかなと感じた。／使用料金が高くなりすぎない料金設定を考えてほしい／多様な意見が出るなごやかな雰囲気になって来た。これからの意見統合が楽しみだ。／広報誌ということが出てくるが、現在、各行事のチラシの配布が大変多いのが現状であり、それにより広報が埋没されてしまう恐れがある。／組織の内容はわかりやすいものにしてほしい。運営管理部門の内容と、市民参加組織と、運営管理との協議する評議委員会のようなものの必要性。／結局この委員会の成果は運営団体を作らないと何もできないのではないかとということが確認出来たのがよかったのかなと思う。／防災談議は世の風潮から一つの争点となるであろうが、あんまり過分にとられすぎると他の必要点を見落とすことになりかねない。専門委員先生方の冷静な判断をご期待したい。

★★★お知らせ★★★

◎市民ホール基本計画意見交換会◎

2012 年 1 月 9 日（月・祝）

午後 2 時から 4 時

場所：小田原市民会館 3 階小ホール

専門委員と市民委員の皆さんの意見交換会を行います。
傍聴は申し込み不要です。直接会場にお越しください！！